

工学研究科 工業化学専攻

人材養成等に関する目的
工業化学専攻は、化学の工業的・工学的な基盤から教育・研究を行い、物質・材料の創製及び解析、資源・エネルギー、環境化学、化学プロセス、生物・生命化学等の広い分野において学術的な研究にとどまらず、人間社会の持続的発展を目指したものづくりと実践で、自立した研究活動によって化学の学術水準の向上に寄与できる有為な人材を育成する。

カリキュラム・ポリシー
修士課程においては、学士課程で身につけた教養、基礎学力、専門知識を基盤として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「修士研究」により、広い視野を持つとともにより精深な学識を修められるよう、工学研究科ならびに工業化学専攻が定める人材育成等の目的を実現するための教育課程を編成する。
(1)「専門科目」では、工業化学分野におけるより高度な専門的知識を身に付けるため、特論、実習等の授業科目を重点的に配置する。
(2)「一般教養科目」では、幅広い分野の学識を修得する授業科目、コミュニケーション能力・他理解・国際性を養う授業科目を配置する。
(3)「修士研究」では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、専門性を高める研究開発力、及び課題解決力を含め、研究者・技術者・設計者等として国内外で国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する。
(4)他研究科・他専攻の授業科目や他大学大学院の授業科目の履修の一部可能とし、学際的で幅広い分野の学習や異分野交流の機会を提供する。

必修科目 選択必修科目 選択科目 *隔年開講の科目や開講時期が入れ替わる科目があるので履修申告の際は時間割を参照のこと

Table with columns for '分野' (Field), '科目群で身に付ける能力' (Ability gained from subject groups), '修士課程1年次' (1st Year of Master's Course), and '修士課程2年次' (2nd Year of Master's Course). Rows include Physical Chemistry, Chemical Engineering, Analytical Chemistry, Organic Chemistry, General Chemistry, and General Education.